

## 品目:花苗 / 発根抑制, 地上部の黄化 (生育が進むと, 症状が進行)

品目:ペコニア, キンギョソウ, キク など (セル苗)

発生時期:2005.7~8

原因:養分の欠乏(特に窒素, リン酸)。  
(アルカリ障害も併発?)

対応策:多量要素を含む液肥を施用。  
※ 液肥の施用により, pHも下がる。

培地の化学性 事例1

	pH	EC (mS/cm)	陰イオン濃度(me/100g)			
			Cl	NO <sub>3</sub>	PO <sub>4</sub>	SO <sub>4</sub>
生育初期	6.0	0.64	0.49	0	0.60	6.48
生育後期	7.4	0.13	0.39	0	0	0.05

・生育後期には, 硫酸イオンが流亡してしまっているため,  
培地のpHが上がリ, ECが下がっている。  
・硝酸イオン(NO<sub>3</sub>)は極めて少なく, 窒素欠乏の懸念がある。

培地の化学性 事例2

	pH	EC (mS/cm)	無機態 窒素 --(mg/100ml)--	可給態 リン酸	交換性塩基		
					K	Ca	Mg
					----(me/100ml)----		
生育初期	5.8	0.7	0.9	2.9	0.23	6.07	4.41
生育後期	7.2	0.1	2.5	2.5	0.31	6.58	3.81

※仮比重を0.1として 無機態窒素および塩基を計算。  
・養分が全般的に不足している。